

□令和7年度小中一貫教育推進研究計画書

1 小中一貫教育の取組について

第2期小中一貫教育の取組 の教職員への浸透について	・浸透している ・<u>概ね浸透している</u> ・浸透していない
令和7年4月現在	課題:昨年度小中一貫教育研究発表会南中ブロックが終了し、「伝える力」「書く力」については、教職員及び生徒に概ね浸透している。ただし、研究組織を7つに設定していたため、研究の範囲が広く同じような内容を研究している所もあった。今年度は研究組織を5つに設定し、精査し研究を行う。

(1)目指す児童生徒像について

NO	取組内容	具体的な内容
1	児童生徒像の設定 共通する目指す	ブロックの共通する児童生徒像 「自ら課題を求め、目標に向かって進んで努力する児童生徒」 学校独自の児童生徒像 『主体的に学び、心からの「あいさつ・清掃・合唱」ができる生徒』 ○礼儀正しい生徒(あいさつ・返事・履物そろえができる生徒)【相手の目を見てさわやかな挨拶】 ○最後までやりとげる生徒(粘り強く継続する生徒)【無言清掃】 ○自信と誇りを持つ生徒(授業・行事・部活動に集中し、努力できる生徒)【心に響く合唱】
2	身につけさせたい 資質能力	ブロックでつけさせたい資質・能力 【9年間でつけたい力】 ◎は、南中ブロック重点指導項目 ○問題から課題を見だし、その解決に向かって努力する力 ◎学習を見通し、多様な関わりの中で学習を深め、自分の考えを「伝える力」「書く力」 ○各教科等の「見方・考え方」を働かせ、学習の成果を生活に生かす力 学校でつけさせたい資質・能力 ○「何を理解しているか、何ができるか」(生きて働く「知識・技能」の習得) ○「理解していること・できることをどう使うか」(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成) ○「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)

合同研修組織部会名等

小中一貫教育推進委員会
(構成)3校の校長・教頭・主幹教諭・教務主任

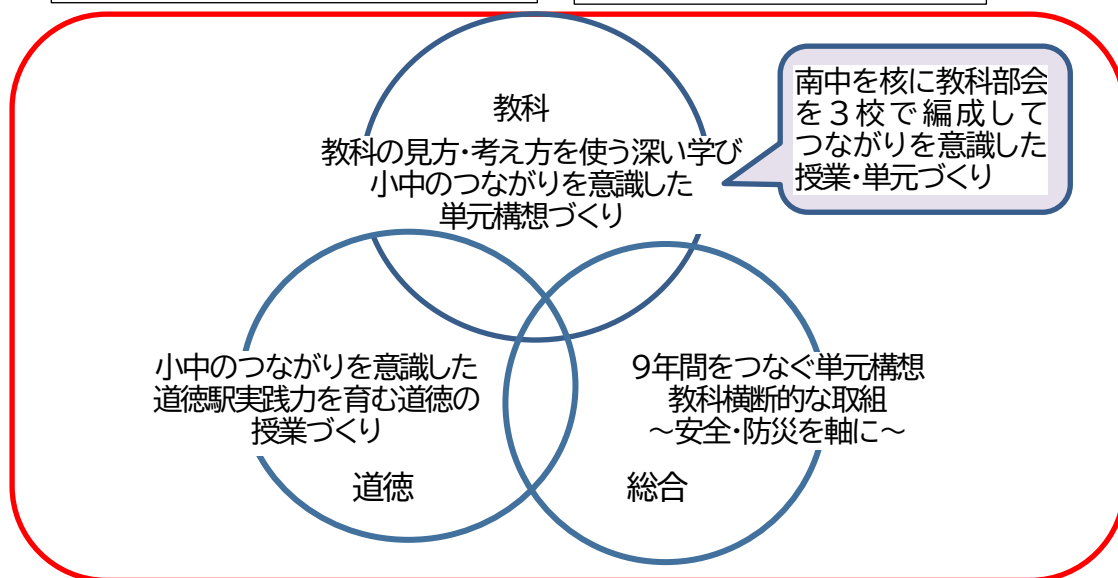
小中一貫教育チーフ部会
(構成)教頭・主幹教諭・教務主任・研修主任・部会チーフ

教科等部会
国語、算数・数学、社会、理科、
音楽、図工・美術、技術家庭、保健体育、
外国語、総合、道徳、特別支援教育

合同部会(5チーム)
カリキュラムチーム
総合的な学習の時間チーム
生活規律定着チーム
小中・小小いれあいチーム

合同研修組織の設置

3



合同部会

- ① カリキュラムチーム
全教科での小中の資質・能力の系統性を踏まえた授業
教科の見方・考え方を活用する授業 出前授業の相互実施
授業におけるICT活用 知識・技能の定着を目指すICT活用 ソフト開発、
AIドリルの効果的な活用
家庭学習の手引き活用、学習ノート、掲示物、学習時間の見える化
- ② 生活規律定着チーム
9年間を見通した授業規律の確立 あいさつ運動
中学校の生徒指導に長けた教員による小学校訪問及びアドバイス
- ③ 小中・小小いれあいチーム
中学校生徒会が小学校を訪問し、朝会で3つの約束を紹介
作品交流 中学校への体験入学(小6)、中学校探検(小5)実施
道徳の協働立案
- ④ 特別支援充実チーム
特別支援学級の児童、生徒の学習内容等の連携
特別支援教育的手法による学級経営の実現 夏の合同研修会の実施
- ⑤ 総合的な学習の時間チーム
総合的な学習の時間の探求課題や系統性、指導方法についての話し合い

学校独自の部会名等

○令和6年度教職員の学校評価「研修内容や時間が適切に設定され、効果的な校内研修となっている」の項目肯定回答率が高い結果となった。ベテラン・中堅・若手教員それぞれの立場において、有効な研修になっているとのデータから、研修組織について再確認し、部会を中心に職員全員で研修する場を設定していく。

(2)小中一貫教育の取組

N O	取組内容	具体的な内容 (P D C A で記入)
4	学習過程の工夫と学習形態の工夫 (授業における8つのポイントの活用)	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> 【板書】課題、日付、教科書等のページ、単元名を明示する。 【ノート指導】・板書に対応したノート指導、日付とページを書く、話し合い活動を記録するスペースの確保、6年時の国・算・理・社のノート形式を中学校に伝達する。 【話し合い活動の充実】小学校はこれまでの話題指導を継続、中学校は教師用話し合いマニュアルを作成する。小学校での話型指導のシートを中学1年時に確認する。 【どのような工夫をしているか】 ○ペア、グループでの話し合いをねらいに応じて計画的に行う。 【共通理解の内容】 ○小学校で定着している対話型指導資料から、中学校ではこれを活用し、振り返りは小学校同様行うが、話型にとらわれず、話し合いの流れをつかんで話すこと、条件を踏まえて話を進めること、役割分担を明確にして話し合いを進めることに留意する指導を進める。各校の取り組みは資料提供を積極的に行い、改善を図る際の参考とする。 <u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 ICT 機器の授業形態等に合わせた活用、書く活動、グループ活動、話し合い活動をさらに充実していき、デジタル教材を有効に活用することが課題となる。 【P】 昨年度 1 日 3 回平均以上のタブレット使用回数はクリアしたので、今度はタブレットの有効活用について、教職員同士の授業参観(年間数回)や効果的な活用について校内研修を実施する。 【D】 ①ICT の活用を重点課題とし、校内研修・教科会で深めていく。1 学期にロイロノートやスタディアアプリについての研修を行い、ペア学習やグループ学習にロイロノートを各教科で有効に活用していく。(年間) ②動画付きドリル(スタディアアプリ)の使用法の周知を、生徒・保護者の両方へ行う。 【C】 ①教職員対象学校評価「研修内容や時間が適切に設定され、効果的な校内研修となっている」の項目において肯定回答100%を目指す。 ②管理職及び担任がスタディアアプリの使用状況を適宜確認。

ブロックでの共通内容・取組内容など

- 「課題」「日付」「教科書のページ」「単元名」を明示する。
- 「まとめ」は、可能な時間には入れ、その際は「めあて(目標)」と対応する。
- 校長、教頭が随時授業を参観し、板書を見てどのような授業がなされているかが分かるかを確認し、良い所をほめ、先生方の自己肯定感を高めていく。
- 板書に対応したノート指導、日付とページを書く、話し合い活動を記録するスペースの確保、6年時の国・算・理・社のノート形式を中学校に伝達する。
- 教科ごとにノートの決まりを統一している。 例) 下記 国語ノート

板書計画の習慣化とノート指導の統一化

5

・ノートにメモが多いと、復習するとき、思い出しやすくなります。
・色ペン(赤・青・緑)を使い分ける。
・字は丁寧に、空白も上手にとり、見やすくします。

①アノ調	②イノ調	③ウノ調	④エノ調	⑤オノ調	⑥カノ調	⑦キノ調	⑧クノ調	⑨コノ調	⑩サノ調	⑪シノ調	⑫スノ調	⑬タノ調	⑭チノ調	⑮ツノ調	⑯テノ調	⑰トノ調	⑱ナノ調	⑲ニノ調	⑳ハノ調	㉑ヒノ調	㉒フノ調	㉓ベノ調	㉔ボノ調	㉕バノ調	㉖ブノ調	㉗ペノ調	㉘ボノ調	㉙バノ調	㉚ブノ調	㉛ベノ調	㉜ボノ調	㉝バノ調	㉞ブノ調	㉟ベノ調	㊱ボノ調	㊲バノ調	㊳ブノ調	㊴ベノ調	㊵ボノ調	㊶バノ調	㊷ブノ調	㊸ベノ調	㊹ボノ調	㊺バノ調	㊻ブノ調	㊼ベノ調	㊽ボノ調	㊾バノ調	㊿ブノ調	
練習問題	①アノ調	②イノ調	③ウノ調	④エノ調	⑤オノ調	⑥カノ調	⑦キノ調	⑧クノ調	⑨コノ調	⑩サノ調	⑪シノ調	⑫スノ調	⑬タノ調	⑭チノ調	⑮ツノ調	⑯テノ調	⑰トノ調	⑱ナノ調	⑲ニノ調	⑳ハノ調	㉑ヒノ調	㉒フノ調	㉓ベノ調	㉔ボノ調	㉕バノ調	㉖ブノ調	㉗ペノ調	㉘ボノ調	㉙バノ調	㉚ブノ調	㉛ベノ調	㉜ボノ調	㉝バノ調	㉞ブノ調	㉟ベノ調	㊱ボノ調	㊲バノ調	㊳ブノ調	㊴ベノ調	㊵ボノ調	㊶バノ調	㊷ブノ調	㊸ベノ調	㊹ボノ調	㊺バノ調	㊻ブノ調	㊼ベノ調	㊽ボノ調	㊾バノ調	㊿ブノ調
①アノ調	②イノ調	③ウノ調	④エノ調	⑤オノ調	⑥カノ調	⑦キノ調	⑧クノ調	⑨コノ調	⑩サノ調	⑪シノ調	⑫スノ調	⑬タノ調	⑭チノ調	⑮ツノ調	⑯テノ調	⑰トノ調	⑱ナノ調	⑲ニノ調	⑳ハノ調	㉑ヒノ調	㉒フノ調	㉓ベノ調	㉔ボノ調	㉕バノ調	㉖ブノ調	㉗ペノ調	㉘ボノ調	㉙バノ調	㉚ブノ調	㉛ベノ調	㉜ボノ調	㉝バノ調	㉞ブノ調	㉟ベノ調	㊱ボノ調	㊲バノ調	㊳ブノ調	㊴ベノ調	㊵ボノ調	㊶バノ調	㊷ブノ調	㊸ベノ調	㊹ボノ調	㊺バノ調	㊻ブノ調	㊼ベノ調	㊽ボノ調	㊾バノ調	㊿ブノ調	

予習・復習はメモ用紙を活用することがおすすめ。
[どんな書き方をするか]を記入する。

学校独自の内容・取組

【昨年度を踏まえた今年度の課題】

・ICT を使用する教員が増えたため、板書指導がおろそかになってきている所がある。ICT と板書の利点を教員が理解し、授業を行っていくが課題である。

【P】

板書指導・ICT 指導、それぞれの利点を生かした授業を実施する。

【D】

板書指導・ICT 指導、それぞれの利点を生かした研究授業及び研修を実施する。

【C】

越谷市授業改善・学校生活アンケート「14授業の内容がわかりますか。」の項目において、生徒の肯定回答99%を目指す。

6	自己肯定感を授業以外の場面で高める取組	ブロックでの共通内容・取組内容など 小い・小中交流を通して、『自己肯定感』を生み出す『非認知能力』を高める感動的な体験活動や、自己有用感を高める異学年交流などを積極的に設定し取り組んでいく。 学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 R6 授業改善・学校生活アンケート「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」肯定的回答の割合について、生徒と教職員に開きがあった。教職員の生徒の声掛け(褒め方)等の研修も必要になると感じた。 【P】 がまっこ祭や合唱コンクールなどの学校行事、各学年行事『1年 宿泊学習』、『2年 校外班別学習』、『3年 修学旅行』について、生徒を称賛する機会を多く設ける。 【D】 がまっこ祭や合唱コンクールなどの学校行事、各学年行事『1年 宿泊学習』、『2年 校外班別学習』、『3年 修学旅行』について、生徒を称賛する機会を多く設ける。 【C】 授業改善・学校生活アンケート「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」肯定回答生徒90%、教職員95%を目指す。
---	---------------------	---